



令和5年度 日本大学文理学部資料館 展示会

記憶と記録の クロスロードとしての 哈爾濱

— 黒崎裕康コレクションの世界 —

2024

1/10 (水)



1/25 (木)

開館時間: 平日10:00~17:00

土曜日は13:00まで

休館日: 日曜日

入館料: 無料

主催: 日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力: 日本大学文理学部史学科



日本大学文理学部資料館
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

記憶と記録のクロスロードとしての哈爾濱 -黒崎裕康コレクションの世界-



本展示会は、中国東北地域の哈爾濱(ハルビン。黒崎裕康氏の記憶ではハルピン)に関する研究者である黒崎裕康氏の業績を偲び、そのコレクションの一部を紹介するとともに、黒崎氏が自らの後半生において重ねられた「記憶」と「記録」との対話に焦点を当て、個人史および日本近代史の中で、どのように哈爾濱を位置づけようとしたのか、その軌跡の可視化を試みるものである。

黒崎氏は幼少期を哈爾濱で過ごされたが、その「記憶」は戦後長い間封印されていた。しかし、哈爾濱再訪を契機として、黒崎氏は「人生の原点」とする哈爾濱に関する資料収集および研究を始められ、毎年のように哈爾濱へ渡航された。黒崎氏のコレクションの充実ぶりは目を見張るものがあり、重厚な研究書も3冊刊行されている。その足跡は、「記憶」の封印を解く旅であり、また「故里としての哈爾濱」を取り戻す旅でもあり、満洲国時代の哈爾濱に在住した経験を持つ最後の世代としての立場から様々な「記録」に向き合い、「日本人にとって哈爾濱とは何であったのか」という課題への解答に迫ろうとする営みでもあった。

黒崎氏は激動の時代を生き抜き、2022年にご逝去された。しかし、黒崎氏の業績は色褪せることなく、これからの時代を生きる私達に、あらためて前述した課題を投げかけている。

日本大学文理学部では、研究活動の一つとして戦前・戦中期の「満蒙」関係資料の収集を精力的に行っており、その過程で黒崎氏より多大なるご助言および資料のご寄贈を受けた。日本大学文理学部資料館における最初の「満蒙」関係展示会として開催された「写された満洲ーデジタルアーカイブから甦る哈爾濱都市空間ー」(2009年10月開催)は、同氏の全面的なご協力がなければ実現しえなかった。

今回の展示会を通して、黒崎氏の本学へのご高配にあらためて感謝の意を示すとともに、「記憶」と「記録」が交差する<場>で、黒崎氏が発した問いの持つ<重さ>に迫っていきたい。

会場：日本大学文理学部資料館展示室(図書館棟1階)
所在地：東京都世田谷区桜上水3-25-40
連絡先：03-5317-8590(資料館事務室直通)
交通案内：京王線 桜上水駅より徒歩8分
京王線・東急世田谷線 下高井戸駅より徒歩8分



【公式ホームページ】

【黒崎裕康氏 略歴・著書】

- 1934年(昭和 9年) 東京市大森区(現・東京都大田区)に生まれる
- 1938年(昭和13年) 父黒崎敬治の日満製粉株式会社役員着任に伴い、満洲国哈爾濱市に転居
- 1946年(昭和21年) 日本に帰国
- 1959年(昭和34年) 早稲田大学教育学部国語国文学科卒業
- 1959年(昭和34年) オリエンタル写真工業株式会社に入社(～1994年定年退職)
- 2022年(令和 4年) 逝去(享年88歳)

『哈爾濱地名考』(地久館出版、1995年)

『哈爾濱・松浦洋行序説ー満洲で成功した日本商社の軌跡ー』

(地久館出版、2010年)

『伊藤博文公の最期』(地久館出版、2016年)

